

## 第3分科会

# JA子ども交流プロジェクトの課題について

## 課題候補

1. 都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施
2. 学校への情報発信・広報機能の拡充
3. JAだからこそ出来る農業・農村体験と学校側が必要とする  
教育的効果を取り入れたプログラムづくり
4. 地域外の学校の受入れ、地域外のJAへの送り出しも含めた  
JA食農教育プランの策定
5. 都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

## 課題候補1

# 【都市農村交流を担当するJA職員を 対象とする研修等の実施】

学校側・JAグループが目的とする受入れを可能とするため、受入れを行う農家・組合員に対して趣旨を伝えることが出来る職員の養成をする必要がある。

# ①都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施

## (1) 提起する理由

受入れに関する研修等の機会が少ないので、単なる農業体験、農村生活体験になりがちであり、JA都市農村交流の目的である「農業へのファンづくり」、「食農教育」、或いは「仕事としての農業(キャリア教育)」等を踏まえた受入をすすめるなければならない。

# ①都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施

## (2) 現状・事例

先進的な取組を行うJAにあっても、受入地域の農業・農村への理解は進むが、日本の農業・農村、子どもたちにとっての農業への理解促進の手段となるまでには至っていない場合が多い。

## ①都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施

### (3) 懸念されること

次世代に向けた農業・農村、JAの活動・事業への理解促進に向けた有効な場であるにも拘らず、そのチャンスを逸する。

研修等の機会の有無によって、プログラム内容に格差が生まれ、JA間での内容の格差も広がる。

# ①都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施

## (4) 解決に向けた整理の方向

①JA都市農村全国協議会において、都市農村交流基礎研修会(JAの窓口担当者対象＝コーディネイター)を実施し、研修の機会を提供している。

◆第1日目◆

時間	講義名	担当講師
13:00～ ～13:20	開講式：開会、挨拶、講師・スタッフ紹介 オリエンテーション：日程、施設等	JA全中 全国農協観光協会
13:20～ ～14:00	第1講義：都市農村交流の概要 ① グリーン・ツーリズムの動向 ② グリーン・ツーリズムの意義と効果 JAが取り組む都市農村交流 ③ JA都市農村交流 ④ JA都市農村交流の意義と効果 ⑤ JA食農教育との違い	【清水 寿一】
14:00～ ～14:30	第2講座：グリーン・ツーリズムの受入機能と携わる人々の役割 ① グリーン・ツーリズムを構成する要素 ② グリーン・ツーリズムにおける役割	【安 卓也】
14:40～ ～15:20	第3講座：実践者による受入事例紹介	JA北信州みゆき 【関 和弘】
15:30～ ～17:00	第4講座：受入手順モデルケースの作成 (グループワーク) ① 自己紹介 ② ワーク手順の説明 ③ グループ編成 ④ グループワーク	【人見 精二】

# ①都市農村交流を担当するJA職員を対象とする研修等の実施

## (4) 解決に向けた整理の方向

②「JA子ども交流プロジェクトインストラクター」(受入れを行う農家・組合員の支援を行うJA職員を対象＝インストラクター)要請研修および安全管理研修を計画し参加の促進を図る。

本マニュアルは子ども農山漁村交流プロジェクト対策事業の助成を受けて作成しています **「子ども農山漁村交流プロジェクト」**  
**受入安全管理**  
**マニュアル** 簡易版

「子ども農山漁村交流プロジェクト」で有意義な教育旅行を提供するためには、安全・安心の受地づくりが必須です。本マニュアルは、受入地域の安全・安心対策の一助になることを願って作成いたしました。危機管理と安全対策を受入地域全体で共有し、ご活用ください。

**危険は、傾向を予測し、予防と対策で安全に!**

発行：関東子ども農山漁村交流プロジェクト推進協議会  
〒101-8613 東京都千代田区外神田1-16-8 Nビル6階  
Tel:03-3257-0316 Fax:03-5294-7176

## 課題候補2

### 【学校への情報発信・ 広報機能の拡充】

取り組みを始める(拡大する)ためには、学校教育機関に対して、JAこども交流プロジェクト、JA食農教育についての告知を行い、JA間のネットワークにより情報提供や紹介が可能であることを伝える必要がある。



## ②学校への情報発信・広報機能の拡充

### (1) 提起する理由

JAグループの連携をもって、都市部JA(送り手)は、学校・教育関係者の要望(ニーズ)を農村部JA(受け手)に伝え、情報提供や紹介等を可能にしていかなければならない。そのためには、都市農村交流に関して都市部JAと農村部JA、および中央会のネットワーク化をすすめるとともに、JAグループの活動として広報する必要がある。

## ②学校への情報発信・広報機能の拡充

### (2) 現状・事例

食農教育に関しては、JAバンク食農教育応援事業で作成した、副読本を全国の小学校に配布する等の活動を行っているが、都市農村交流の送出しとしてJAは、学校に対して直接的な情報発信、紹介等を行っていない。

## ②学校への情報発信・広報機能の拡充

### (3) 懸念されること

学校が、都市部、農村部に関わらず、行政・民間企業・NPO等と直接、或いは旅行会社等を介して、連携を図ることによって、JAグループ不在の食育、農業体験、都市農村交流が進展する可能性がある。

## ②学校への情報発信・広報機能の拡充

### (4) 解決に向けた整理の方向

①全国的な展開によるJA子ども交流プロジェクト、JA都市農村交流の広報活動を行う。



## ②学校への情報発信・広報機能の拡充

### (4) 解決に向けた整理の方向

②都市部において使用する受入れ地域別のパンフレットやウェブ・サイトを作成し、県域単位もしくは近県の中央会、JAが協力して、都市部の学校および旅行会社等に対して働きかけを行う。



片品村の「人」は、方言も色濃く残る素朴な人柄です。滞在中、農家民宿の「おじい・おばあ・おとう・おかあ」を通じ伝統や生活、人情にふれます。

国立公園の湿地「尾瀬」、湖水美の「丸沼」、関東以北最高峰「日光白根山」キャンプ地の「武尊山」、そして7つのスキー場に8つの温泉と、これ以上ないといったらよいほどの観光資源に恵まれた四季のはっきりとした村です。

村内には280軒余りの農家民宿を中心とした宿泊施設があり、地の食材を利用した料理、人情味あふれるホスピタリティで多くの受入をしています。

## 課題候補3

【JAだからこそ出来る農業・農村体験と学校側が必要とする教育的効果を取り入れたプログラムづくり】

学校の教科と「JA食農教育」等が連動したプログラムを作る必要がある。又「みんなのよい食プロジェクト」も有効活用する。

### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

#### (1) 提起する理由

農業・JAを理解してもらおう好機として捉え、プログラム作りを行わなければならない。

学校側の要望として教育的効果を踏まえ  
課題1、②と同様にJA側の目的も踏まえたプログラムを作成しなければならない。

### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

## (2) 現状・事例

単なる農作業体験をプログラムとしている例が多いため、学校の教科に反映できていなかったり、JAグループの取り組み目的が現れていないプログラムも多い。



### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

#### (3) 懸念されること

JAが実施する意味合いが薄れ、日本の農業・農村理解への効果や魅力が伝わらない。

また、学校教育と連動しないため、JAが作ったプログラムが採用されず、学校関係者に取り上げられないこともある。

### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

## (4) 解決に向けた整理の方向

①学校教育の  
カリキュラムと連携した  
プログラムを作成する  
知識を習得する。

### 大自然実証型カリキュラム

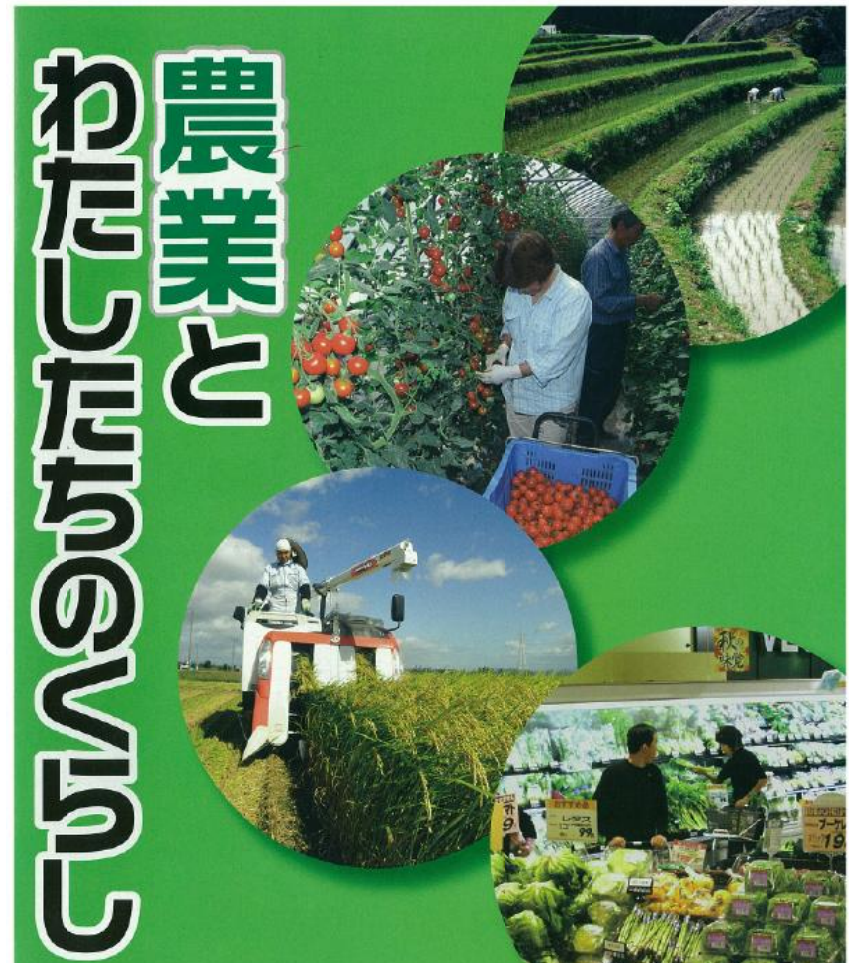
～自然のつながりを学ぶ～

活動プログラムの名	教科	所要時間
星空観察会	理科	1時間
源流探検	理科	3時間
エコ野外炊事	家庭	5.5時間
妙高火山	理科	7時間

### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

## (4) 解決に向けた整理の方向

②「JA食農教育」活動に関する資材を事前・事後学習で有効活用するとともに「みんなのよい食プロジェクト」における広報資材も有効活用する。



### ③教育的効果を取り入れたプログラムづくり

## (4) 解決に向けた整理の方向

③学校給食食材提供、出前授業等と連動した取組を実施する。





## 課題候補4

【地域外の学校の受入れ、地域外のJAへの送出しも含めたJA食農教育プランの策定】

「JA食農教育プラン」の作成、見直し等を行う際には、JAは地域外の子どもの受け入れや、地域外への送り出しを計画に入れる必要がある。

## ④地域外含めた食農教育プランの策定

### (1) 提起する理由

地域外の学校を受け入れることで、地域内完結ではできないような、地域振興(経済的効果、地域の観光の振興、高齢者のいきがづくり、青年部・女性部の活動の活性化等)の効果が期待できる。また都市部JAは学校に対して、地域にはない農業体験の機会提供をすることで、多様な効果を期待できる。

## ④地域外含めた食農教育プランの策定

### (2) 現状・事例

「JA食農教育」の対象者や活動範囲が特定されていないため、地域内完結で終始していることが多い。

そのため「JA食農教育」の実践を通して培ってきたノウハウが、地域的にも年代層的にも広く生かされてれない。



## ④地域外含めた食農教育プランの策定

### (3) 懸念されること

JAが関わらない、行政、観光協会、NP  
O等による受入れ・送出し体制が広がり、  
この活動に関する組合員・地域住民お  
よび学校とJAの関わりが薄くなる。

## ④地域外含めた食農教育プランの策定

### (4) 解決に向けた整理の方向

①「JA食農教育プラン」の中で地域外の学校に対する受け入れ、地域外への送り出しを考慮した計画を作成できる仕組みを構築する。

## ④地域外含めた食農教育プランの策定

### (4) 解決に向けた整理の方向

②「なぜ、地域外の子どもたちに対しても、JAは食農教育活動を行うのか」等の意義を明確にし、農家・組合員、JA役職員に浸透を図る。

## 課題候補5

# 【都市と農村における相互の 協力・支援体制の構築】

都市部JA(送り手)と農村部JA(受け手)での相互交流を視野に入れて実施する必要がある。

## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (1) 提起する理由

「JA子ども交流プロジェクト」「JA食農教育」等により、次世代を担う子ども達に農業・JAへの理解を深めさせるとともに、農業・農村を資源とした新たな「JA旅行事業」「JA観光事業」(或いは交流事業)の整備・拡充の社会的要請が高まっている。

## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (2) 現状・事例

「夏休みこども村」は、恒例行事として提携的な動きはある。また直売所のJA間姉妹提携に伴う人的交流は事例は出つつあるが、学校行事等におけるJA間姉妹提携の取り組みについては事例はない。

## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (3) 懸念されること

都市部送り出しと農村部受け側の思いが相互に理解・共有されないと交流促進はうまくいかない。

## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (4) 解決に向けた整理の方向

①JA間姉妹提携等により、都市部・農村部JAの相互のマッチングを行う。(JA都市農村交流全国協議会意見交換会等の活用等)



## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (4) 解決に向けた整理の方向

②厚生連、家の光、農協観光等によるJAグループ全国機関の後方支援的役割、を明確にする。

## ⑤都市と農村における相互の協力・支援体制の構築

### (4) 解決に向けた整理の方向

③同様に都市部における全国機関の社会貢献・広報活動における支援も明確にする。